

第3期宮崎市保健事業実施計画 (データヘルス計画)

【目的】

- 被保険者の健康増進
- 医療費の適正化
- 保険者の財政基盤強化

健診・医療情報を活用して、PDCAサイクルに沿った効果的な保健事業を実施することを目的とします。

※第4期特定健康診査・特定保健指導実施計画を盛り込み、一体的に策定しています。

【計画期間】

令和6年度～11年度(6年間)

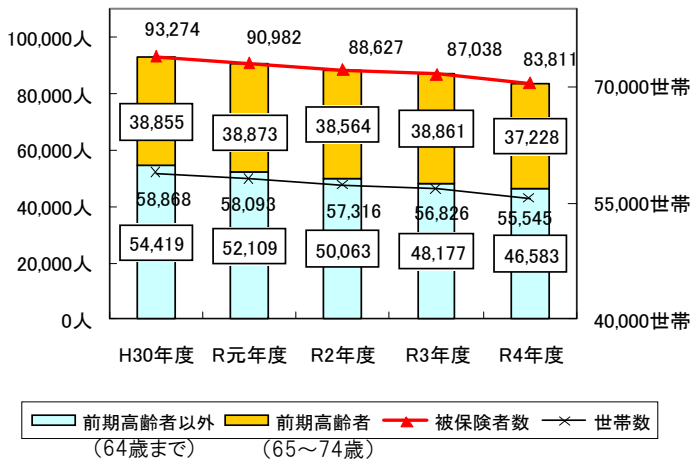
【関係者が果たすべき役割】

宮崎市国保が主体となり、関係部局や医師会等の保健医療関係者や宮崎県関係課と連携を図り、外部有識者の支援のもと、計画を推進します。

また、被保険者は自身の健康状態を理解して、主体的に健康増進に取り組むことが大切です。

①70歳未満の国保加入者数は減り、1人当たりの医療費は増えています

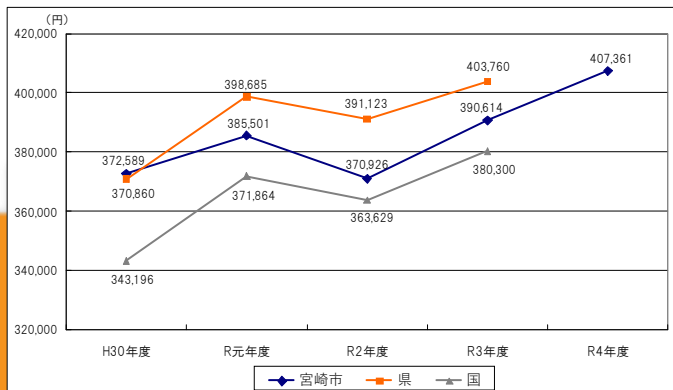
◆被保険者数及び世帯数の推移



国保加入者数は、平成30年度からの4年間で約1万人減少している一方で、70歳以上は増加傾向にあります。

※令和5年度版 宮崎市国民健康保険の概要

◆1人当たりの医療費の状況



1人当たりの医療費の状況は、県や国と同じ推移となっています。また、宮崎市の1人当たりの医療費は国より高くなっていますが、県より低い状況にあります。

※市の医療費：令和5年度版 宮崎市国民健康保険の概要

※県・国の医療費：厚生労働省 医療費の地域差分析(市町村国民健康保険の地域差)

※作成時、令和4年度の県・国の数は公表されていないため、市の値のみ掲載

課題

国保加入者数の減少と高齢化に伴い、医療費の増加が見込まれます。生活習慣病予防等による医療費適正化と介護予防に重点を置いた取組が重要です。

②データヘルス計画のターゲットとなる下記の疾患の医療費は減少しており、保健活動の一定の成果がみられます

	心	脳	腎		高血圧	糖尿病	脂質 異常症	脳・心・腎	
	狭心症	脳梗塞	慢性腎不全					高血圧・糖尿病・脂質異常症 の医療費合計と割合	
	心筋梗塞	脳出血	(透析有)	(透析無)					
H30年度	5.83億円	7.35億円	14.41億円	0.59億円	11.53億円	15.37億円	5.97億円	61.04億円	20.11%
R4年度	3.75億円	5.64億円	12.40億円	0.53億円	8.66億円	14.12億円	4.46億円	49.56億円	18.16%
R4年度 県	12.19億円	17.34億円	39.18億円	2.08億円	28.32億円	44.98億円	13.09億円	157.19億円	18.55%
R4年度 国	1,237.25億円	1,723.93億円	3,637.92億円	247.20億円	2,615.49億円	4,616.74億円	1,800.06億円	15,878.60億円	18.66%

※データヘルス計画作成・評価支援ツール

医療費合計は、平成30年度と令和4年度を比較すると約12億円減少しており、医療費の割合も国や県より低くなっています。

③脳疾患による死亡が国に比較して圧倒的に多く、脳卒中で介護保険を受けている方が多い状況です

◆死亡の状況

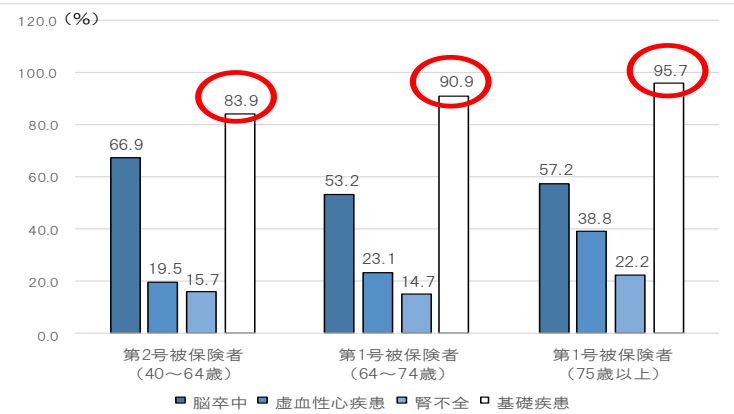
(单位:%)

	宮崎市	県	国
がん	49.2	46.1	50.6
心臓病	26.4	30.1	27.5
脳疾患	15.4	15.0	13.8
糖尿病	2.0	2.0	1.9
腎不全	3.5	3.9	3.6
自殺	3.4	2.8	2.7

宮崎市は、脳疾患、糖尿病、自殺での死亡が国と比較して多い状況にあります。

※KDB(R4 地域の全体像の把握)

◆被保険者の要介護・要支援認定者の有病状況



要介護・要支援認定者は、40～64歳の若い世代でも80%以上が高血圧や糖尿病、脂質異常症の基礎疾患を持っています。年代が上ると保有率も上がり、75歳以上においては95%の方に基礎疾患があります。

※基礎疾患(高血圧・糖尿病・脂質異常症)
※保健指導実践ツール

(単位：人)

受給者区分		2号		1号								合計	
年齢		40～64歳		65～74歳		75歳以上		計					
介護件数(全体)		416		2,141		16,984		19,125		19,541			
	再)国保・後期	236		1,558		16,119		17,677		17,913			
疾患	順位	疾病	件数 割合	疾病	件数 割合	疾病	件数 割合	疾病	件数 割合	疾病	件数 割合		
循環器 疾患	1	脳卒中	158	脳卒中	829	脳卒中	9,223	脳卒中	10,052	脳卒中	10,210		
			66.9%		53.2%		57.2%		56.9%		57.0%		
	2	虚血性 心疾患	46	虚血性 心疾患	360	虚血性 心疾患	6,255	虚血性 心疾患	6,615	虚血性 心疾患	6,661		
			19.5%		23.1%		38.8%		37.4%		37.2%		
	3	腎不全	37	腎不全	229	腎不全	3,584	腎不全	3,813	腎不全	3,850		
			15.7%		14.7%		22.2%		21.6%		21.5%		

要介護者・要支援者の有病状況は循環器疾患でみると、脳卒中が圧倒的に多くなっており、特に40～64歳の若い世代で顕著になっています。

※保健指導実践ツール

Ⅱ度高血圧以上の推移

	健診受診者	Ⅰ度高血圧	Ⅱ度高血圧以上			※再掲) Ⅲ度高血圧			Ⅱ度以上高血圧	Ⅲ度高血圧
			未治療	治療		未治療	治療			
H30	15,998	3,148 (19.7%)	740 (4.6%)	456 【61.6%】	284 【38.4%】	119 (0.7%)	88 【73.9%】	31 【26.1%】	0.7%	4.6%
R1	18,221	3,491 (19.2%)	857 (4.7%)	519 【60.6%】	338 【39.4%】	134 (0.7%)	103 【76.9%】	31 【23.1%】	0.7%	4.7%
R2	16,069	3,439 (21.4%)	910 (5.7%)	536 【58.9%】	374 【41.1%】	149 (0.9%)	107 【71.8%】	42 【28.2%】	0.9%	5.7%
R3	17,287	3,560 (20.6%)	891 (5.2%)	549 【61.6%】	342 【38.4%】	145 (0.8%)	108 【74.5%】	37 【25.5%】	0.8%	5.2%
R4	17,251	3,476 (20.1%)	863 (5.0%)	498 【57.7%】	365 【42.3%】	118 (0.7%)	81 【68.6%】	37 【31.4%】	0.7%	5.0%

※Ⅱ度高血圧:160～179/100～109mmHg

Ⅲ度高血圧:180～/110～mmHg

※保健指導ツール

Ⅱ度高血圧(160～179/100～109mmHg)以上の方でも半数以上が未治療のままであり、Ⅲ度高血圧(180～/110～)においても、約7割が未治療という結果になっています。

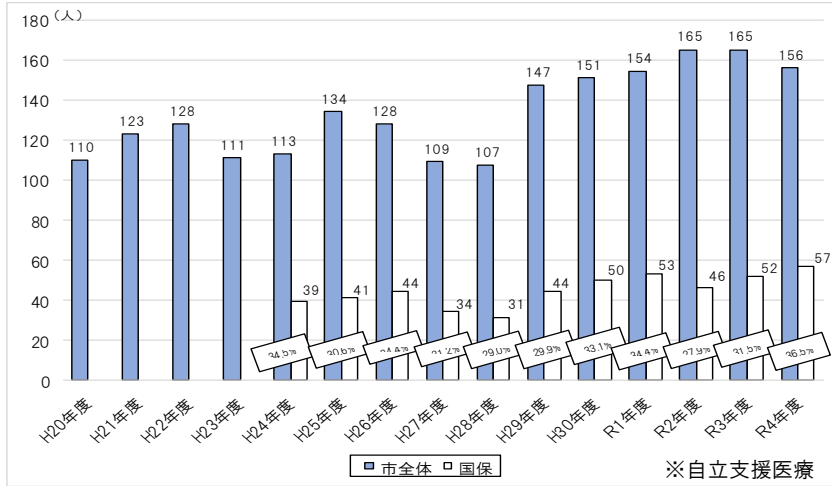
課題

高血圧は脳卒中の最大の危険因子であるため、早期に治療につなげることが重要です。

④宮崎県は新規透析導入患者割合(人口10万対)が全国3位です

※R3年度 わが国の慢性透析療法の現状

◆宮崎市新規透析導入者の推移



平成28年度が最少となりましたが、平成30年度以降は150人を超えて推移しています。令和4年度の新規透析導入者数に占める国保の人数は57人であり、その割合は36.5%となっています。

課題

糖尿病による合併症を予防するためには、血糖のコントロールが重要です。

⑤健診未受診者が多く、特定保健指導の利用も少ないです

特定健診受診率及び特定保健指導実施率の推移

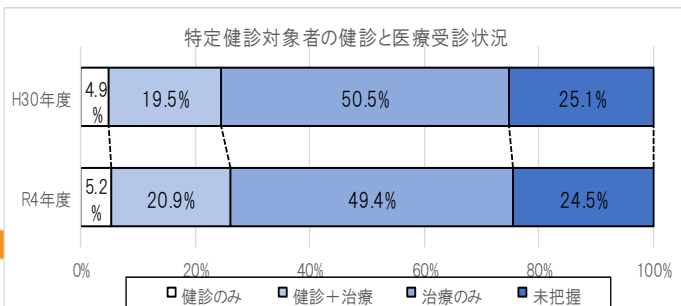
	特定健診				特定保健指導				
	対象者	受診者数	受診率	県受診率	対象者数	対象者割合	終了者数	実施率	県実施率
H30年度	63,191	15,508	24.5%	36.7%	1,898	12.2%	486	25.6%	51.1%
R1年度	61,645	17,481	28.4%	38.7%	2,046	11.7%	325	15.9%	48.0%
R2年度	61,389	15,619	25.4%	35.9%	1,810	11.6%	230	12.7%	49.3%
R3年度	59,319	16,653	28.1%	37.0%	1,956	11.7%	276	14.1%	46.3%
R4年度	56,088	16,582	29.6%		1,774	10.7%	295	16.6%	

※H30～R3年度は法定報告、R4年度は11月速報値

令和4年度の宮崎市の特定健診受診率は過去最高の29.6%でしたが、県受診率と比較すると依然として低い状況にあります。特に治療中で健診を受けていない人の割合が高いです。

課題

治療中の人でも健診を機に、かかりつけ医と専門医、行政が連携して受診勧奨・保健指導を行い、重症化予防に取り組むことが重要です。今後は、受診率向上や重症化予防に向けて、市民や医療機関等の関係機関・関係団体と連携した取組を、より一層推進していく必要があります。



保健事業の目標設定と展開

事業1：特定健康診査受診率向上対策

- ・通院中の健診未受診者に特化した周知啓発、医療機関との連携強化
- ・効果的な受診勧奨通知の導入(AI活用)
- ・若い世代からの生活習慣改善と健診受診の習慣化のため、35～39歳の健診を実施
- ・受診する機会の充実(健診会場と回数の見直し、休日の健診日の設定)
- ・健診の自己負担金無料化



指標	現状(R4)	目標値(R11)
・特定健診受診率(40～74歳)	29.6%	36.0%
・健康診査受診率(35～39歳)	11.1%	14.5%
・未把握者の割合 (健診も治療も受けていない人)	24.5%	23.8%
・治療のみの割合 (治療のみで健診を受けていない人)	49.4%	45.5%

事業2：特定保健指導実施率向上対策

- ・初回面接における分割実施の推進
- ・委託機関と連携し、特定健診後できるだけ早期に特定保健指導を実施
- ・未利用者に対し、突撃訪問による利用勧奨の実施やコールセンターを活用した夜間休日の電話勧奨
- ・対象者の利用しやすい体制整備(平日夜間及び土日祝日の実施、自宅訪問や公共施設の利用など)
- ・インターネットによる予約受付
- ・初回面接を兼ねた運動教室の実施



指標	現状(R4)	目標値(R11)
・特定保健指導実施率	16.6%	30.0%
・特定保健指導対象者の減少率	27.9%	29.5%

事業3：生活習慣病重症化予防事業

- ・高血圧を最優先課題とし、保健指導を重点的に実施
- ・健診の受診者で高血圧・糖尿病・慢性腎臓病(CKD)等の未治療者、糖尿病治療中断者、ハイリスク者に対し、訪問等により受診勧奨及び保健指導を実施
- ・CKD連携システム、糖尿病性腎症連携システムにより、かかりつけ医と腎臓専門医・糖尿病専門医が必要時連携して重症化予防のための支援を実施
- ・国保部門と保健衛生部門が連携し、保健指導の質の向上や健康課題の分析・対策の検討を実施



指標	現状(R4)	目標値(R11)
・HbA1c8.0%以上の者の割合	0.9%	0.6%
・HbA1c8.0%以上の者の割合の年齢階層別指標(40～64歳)	1.0%	0.6%
・HbA1c8.0%以上の者の割合の年齢階層別指標(65～74歳)	0.8%	0.6%
・HbA1c6.5%以上の者の割合	8.2%	6.0%
・血圧が保健指導判定値以上の者の割合	47.6%	45.0%